

ともに・・・

R7. 10. 22

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

みんなで創りあげた大運動会

～計り知れない成長とともに…～

10月18日（土）、心配していた天気も、子どもたちの願いが天に届いたからでしょう。一転し、さわやかな青空のもと、秋季大運動会を予定通り実施することができました。

いよいよ開会式。入場する子どもたちの表情は、きりりと引き締まり、式に臨む子どもたちの挨拶も、実際に清々しく力強いもので、運動場内に響きます。子どもたちが運動会に臨む気持ちが、表情や声に大いに表れています。

応援合戦は、赤白各組の独自性が表現された素晴らしいものでした。練習を始めた頃は、両組とも全く同じ振付だったものが、「自分たちの色を出していこう」との担当教員の声かけをきっかけに、各組それぞれに、自分たちならではの応援を考えていったそうです。

小運動会の応援では、団員たちの振りが不十分だったところが散見されました。しかし、本番では、新たな振付も加え、動きに気持ちがしっかりと乗り、揃っています。

圧巻は、「赤組のために大きな拍手」「白組のために大きな拍手」「北小のために大きな拍手」「来てくれた人に大きな拍手」との団長のかけ声を受け、子どもたちだけではなく、観覧にお越しいただいた保護者や来賓・地域の方も自然と一緒に手拍子を合わせ、心を合わせています。会場内が拍手の響きで包まれ、私も思わず心が揺さぶられました。



今回の運動会の練習では、表現（ダンス）を除き、全種目作戦会議の時間を設けました。考えた作戦を実行し、さらに作戦会議を重ねるという、自分たちで考えを練り合う過程を大事にしてきました。

全校リレーの低学年の練習の中では、作戦会議で走順が話題になったそうで、〈走順を変える〉ことで勝敗にも影響が出



てくることをつかんだ子どもたち。何度も何度も走順を入れ替えて、本番に臨んだそうです。

本番でその作戦が活きたかどうか、子どもたちの胸の内はどうだったのでしょうか・・・。

表現（ダンス）では、低学年・高学年とも、曲に合わせて明るい表情、そしてテンポのよいリズムに合わせて、誰もが楽しそうに踊り表現していて、見る者の心も明るく楽しいものにしてくれました。

振付の一部は、曲想や歌詞の様子を表現するために、子どもたちのアイデアが取り入れられています。高学年では、例えば「楽しい」という歌詞を表すための振付を、子どもたち一人一人が自由に表現しながらも、全体的に見ると統一感があるという場面が散りばめられて、高学年らしさを感じさせる素晴らしいものでした。



閉会式。今年度は、赤組135点、白組162点で、白組の勝利でした。勝利に喜ぶ白組の横で、帽子を目深にかぶりうつむく子や涙を流す赤組の子も何人もいます。この運動会に真剣に向き合い、練習時からみんなで心を一つにし、全力で取り組んできたからこそ姿です。

点数では勝ち負けはありますが、子どもたちが運動会にかける情熱とひたむきさには、勝敗はありません。赤組の団長が、感想発表の中で、「みんな眞面目に練習したし、最後のリレーで赤組が勝っていたら、白熱した展開になっていたと思う。みんな頑張っていた」と、くやしさをぐっとこらえつつ、団員一人一人の頑張りを認め、ねぎらう姿に、私も胸が熱くなりました。

この運動会は、子どもたち一人一人に計り知れない貴重な成長の場となったことでしょう。

そして、なによりも、この子どもたちに、始めから最後まで惜しみない声援を送り、応援してくださった保護者や地域の方々。この子どもたちとともに会場を盛り上げ、一致団結した姿と一緒に創っていただきました。

このような素晴らしい運動会を創った北杵築っ子たち、そして、保護者・地域の皆様方に、大きな拍手を送りたいと思います。

ありがとうございました

保護者の皆様、地域の皆様、早朝よりご来場いただき、子どもたちに最後まで惜しみない温かい拍手やご声援をいただき、大変ありがとうございました。

また、競技中の親子競技・玉入れ・盆踊りのご参加も含め、テントの設置・片づけ等にもご協力をいただき、改めてお礼申し上げます。

当日を迎えるにあたり、草刈り等の運動場の整備、環境美化等々、たくさんの方に支えられた大運動会でした。皆様と一緒にになって、素晴らしい運動会ができましたことに、心より感謝申し上げます。